

注文をまちがえる喫茶店 だんない

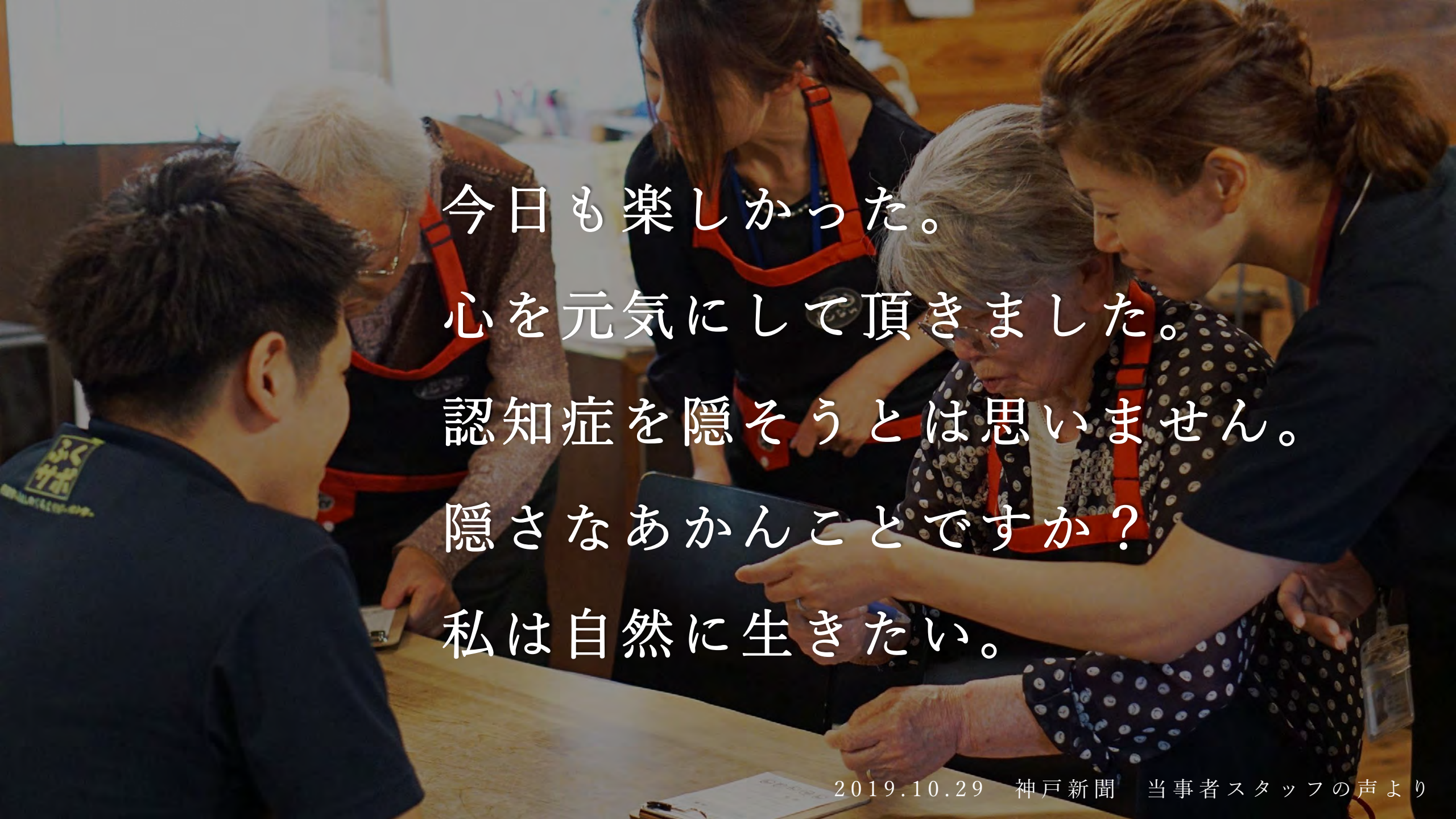
【東海・北陸ブロック】令和6年度地域づくり加速化事業研修会

【兵庫県】丹波市社会福祉協議会

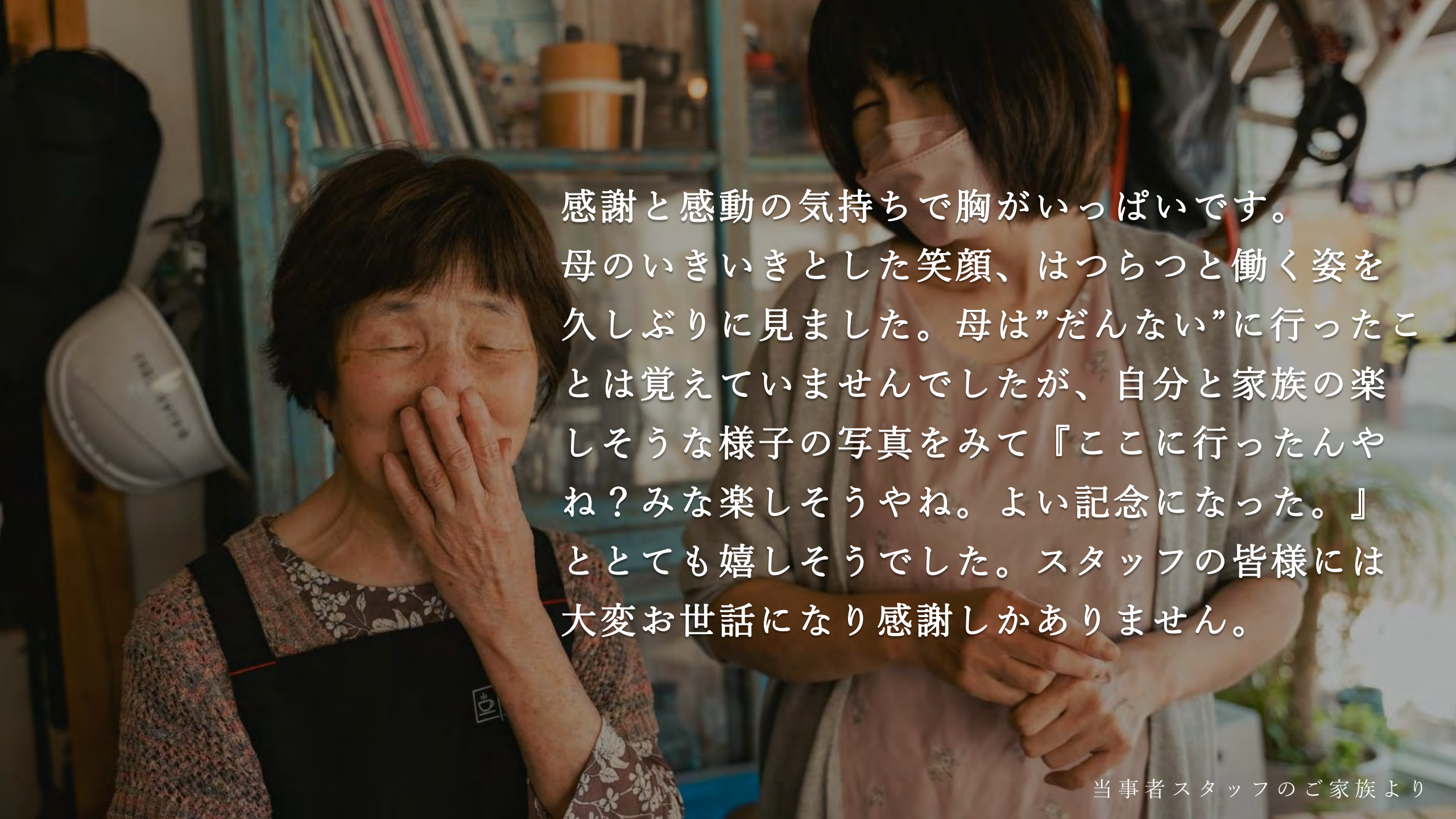
生活支援コーディネーター

庄司 滉祐

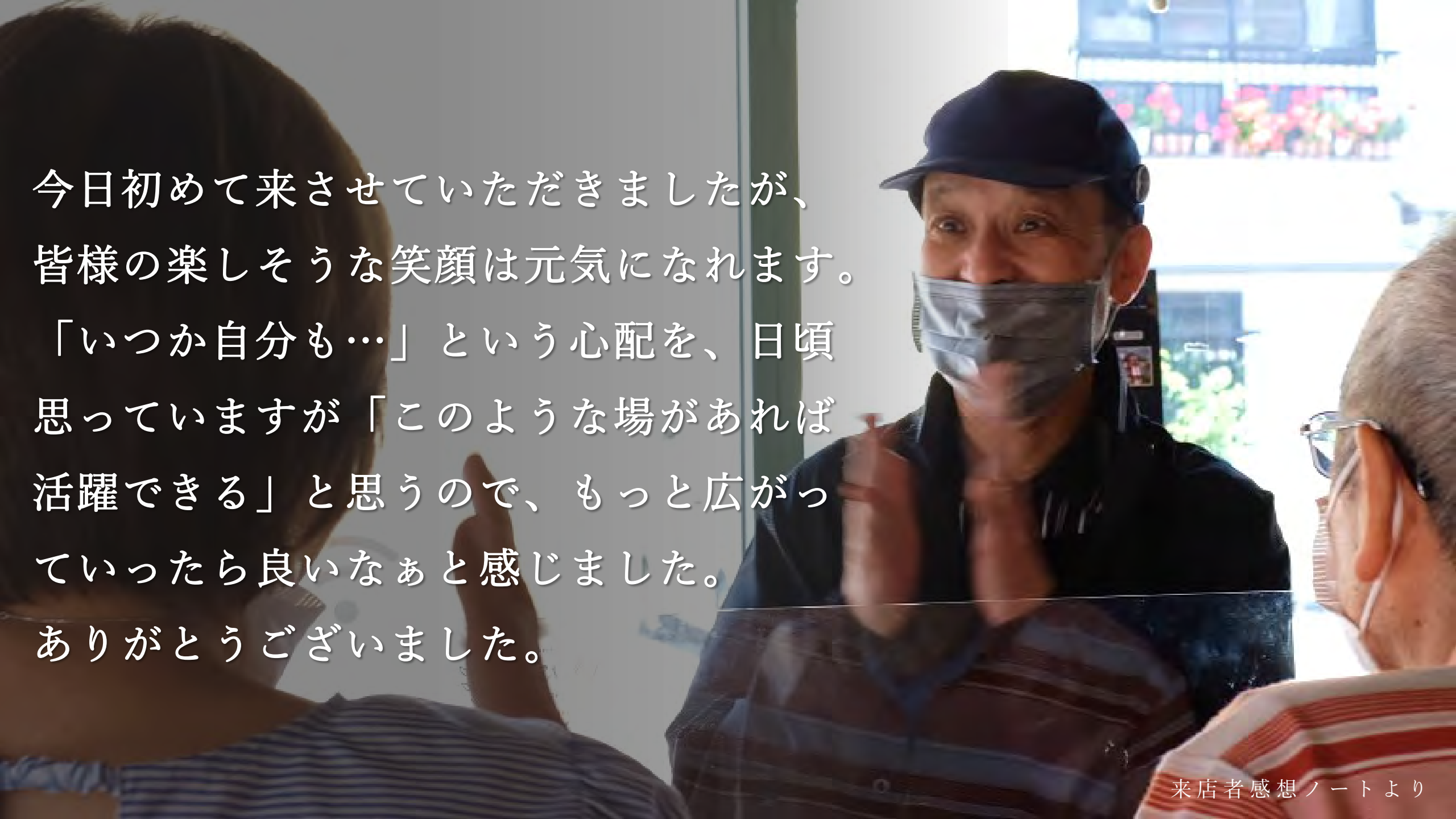




今日も楽しかった。
心を元気にして頂きました。
認知症を隠そうとは思いません。
隠さなあかんことですか？
私は自然に生きたい。



感謝と感動の気持ちで胸がいっぱいです。
母のいきいきとした笑顔、はつらつと働く姿を
久しぶりに見ました。母は”だんない”に行ったこ
とは覚えていませんでしたが、自分と家族の楽
しそうな様子の写真をみて『ここに行ったんや
ね？みな楽しそうやね。よい記念になった。』
ととても嬉しそうでした。スタッフの皆様には
大変お世話になり感謝しかありません。

A man wearing a blue cap and a grey face mask is clapping his hands and smiling. He is in the center of the frame, looking towards the left. To his left, the back of a person's head and shoulder is visible. To his right, the side profile of another person wearing glasses and a white face mask is visible. The background shows a window with a view of a building and some flowers.

今日初めて来させていただきましたが、
皆様の楽しそうな笑顔は元気になれます。
「いつか自分も…」という心配を、日頃
思っていますが「このような場があれば
活躍できる」と思うので、もっと広がっ
ていったら良いなあと感じました。
ありがとうございました。



注文をまちがえる喫茶店 だんない

- 市民活動団体として設立
- 認知症当事者がスタッフの喫茶店
- 多様な参加方法を準備
- 地域の協働基盤で支える
- 企業等の多様な参画、賛同、支援
- 多世代への認知症の理解促進





開店時間は2時間
来店者は40~50名 (最多は80名)



注文をまちがえる喫茶店 だんない

□ 地域に根差す
地域基盤やネットワーク
を活用し後方支援



柏原地域支えあい推進会議 (第2層協議体)

日常生活圏域に設置

- ネットワーク構築 (基盤整備)
- 意識統一、啓発
- 協議・企画・立案
- 働きかけ



地域生活を考える勉強会

代表者会議開催、目的・役割・範囲等の合意形成

- 人づくり・規範的統合
- 信頼関係構築⇒理解促進⇒行動促進
- 多様な参画
- 医療・介護関係者、民間企業、行政、市議会等

地域連携×個人情報×防災

- 在宅生活を支える見守り活動円滑化に向けた取り組み
- シミュレーションゲームの開発・実践、指針の策定

生活困窮者支援×農家×当事者参加

- コロナ禍を機に、農家や農協、団体・企業と連携
- 5.5t集め、個人だけでなく子ども食堂や各種団体を支援

買い物困難者支援×企業支援

- 生活協同組合との協働、社協との協定締結へ

集いの場の普及×自治組織役員向け研修会

- 7年継続、開催箇所は10倍、一般介護予防事業の展開

共に学ぶ・協議の機会の継続×担い手・後継人財確保

- 参加者延べ2,000名以上、関係人口の増加
- 担い手、人材発掘の仕組み化、人材リストの作成

【企業】
社会貢献

相互利益

【学校】
社会教育

認サポ実施、参加

□ 企画コンセプト

- ①当事者・家族視点の重視
- ②地域との協働、継続事業
- シミュレーションの実施
- ①顔合わせ・打合せ
- ②認知機能・ADL等確認
- ③間違えない仕組みづくり

- 在宅で生活する当事者が対象
- 医療福祉等の専門機関との連携
- 地域や学校等での理解促進の機会創出
- 企業等多様な参画と賛同、支援
- 気軽に行ける相談所機能

注文をまちがえる喫茶店in丹波企画実行委員会

当事者家族、有志等



丹波市南部地域包括支援センター
認知症地域支援推進員

- 当事者、家族、関係機関とのネットワーク
- ・個別支援を通じた地域との信頼関係構築
- ・在宅医療・介護連携推進事業

機能分化・連動



丹波市社会福祉協議会
生活支援コーディネーター

- 地域、多様な主体との信頼関係構築
- ・適切な手段(技術)の量・質の確保
- ・協議、活動創出、事例・実績の蓄積

既存の場ではなく、新たな場を志向



- 全体最適を考えた上での部分最適の追求
- 地域の利益、負担軽減を追求する価値観
- 知見の共有と蓄積、評価・継続的改善
- 楽しさ、達成感、充実感
- 共創を生む体制整備、マネジメント

目次

- 1 きっかけ
- 2 みんなをつなぐもの
- 3 共感から共創
- 4 築きと気づき



きっかけ

堀下町 ㊦ かみばら

悔いが残っています。

認知症になっても 主人公として 活躍できる 場所があれば…

自身の母が認知症歴20年以上、介護度が低く、
まだまだ元気であった頃に”自分から何かを
して楽しむ経験”をいっぱいさせてあげた
かった。


「丹波で認知症になっても笑顔で活躍できる
素晴らしい場所を創れないか？」





注文をまちがえる喫茶店in丹波 企画実行委員会を設立 2019

相談を受けた生活支援コーディネーター（左）と認知症地域支援推進員（右）は、地域をまわる中で関心層を把握していたため、当事者家族（中央）、地域住民で実行委員会（市民活動団体）を設立。実行委員会では「たとえ忘れても、間違えても、温かく受け入れてもらえるような、そんな場所を地域の中に創っていきたい」という想いを共有し、喫茶店の名称を「注文をまちがえる喫茶店だんない」に決定。個人や地域、企業等の協力を得て、地域に根差した喫茶店を立ち上げることに。

A photograph of three women in a cafe or bar setting. The woman on the left has long, wavy brown hair and is wearing a white long-sleeved blouse under a black apron. The woman in the center is wearing a black t-shirt and a white face mask. The woman on the right is wearing a purple floral patterned top under a black apron and a white face mask; she is leaning over a counter, packaging drinks into a clear plastic bag. On the counter are several clear plastic cups with red straws, some with labels that say 'HANNAL'. The background shows a bar counter with various bottles and a wooden pillar.

みんなを
つなぐもの

企画コンセプト 役割分担

地域から必要とされ、
大切にされる場所に。
支援機関の自己満足、
一方的な指標で評価しない。
個別×地域（機能分化）



当事者・家族視点の重視

認知症地域支援推進員

- “在宅”で生活する当事者スタッフ
やご家族の意向を丁寧に確認
- “主体的な参画”を目指し当事者の
視点を積極的に企画に反映
- 地域住民や地域で生活する認知症
の方、そのご家族の視点を意識



地域との協働・継続事業

生活支援コーディネーター

- 単発的な”イベント”、地域・生活
者から“離れた”“浮いた”取り組み
ではなく地域に根差した継続的な
取り組みに。地域基盤の整備。
- 多様な主体との価値観の共有
- 三方よし

当事者・家族視点の重視

当事者・家族は当然のこと、来店者も安心できる場所に



丁寧な意思確認

信頼関係構築・不安を取り除く

- ❑ 企画趣旨を当事者、家族の両者に説明
- ❑ 説明時には「認知症」の言葉を濁さず伝える
- ❑ 同意書（当事者用・家族用）にて最終意思確認



企画に当事者の視点を反映

当事者を中心に置く

- ❑ シミュレーションにて役割分担と“まちがえない仕組み”を模索
- ❑ 本番後のミーティングにてスタッフ全員で反省点や課題を共有
- ❑ 準備から本番終了までの全ての場面に当事者スタッフが参加



行ってみたいと思えるプロモーション

生活者にとっても身近な場所に

- ❑ 一般の飲食店を貸し切り営業
- ❑ チラシ、HP、インスタグラム、PV、ノベルティグッズ等を用いた広報活動
- ❑ 様々な媒体を介して当事者の声を発信

地域との協働、継続事業

“地域が後方支援を担う”ことで、関係人口も増え、周囲が協力しやすい体制を構築する。その中心を担うのは“第二層協議体”。

□ 理解促進の機会創出

自治組織や民生委員、地元高校、他地域等でだんないを盛り込んだ認知症サポーター養成講座の開催を進め、関係人口の増加を狙う。「まずはコーヒーでも飲みに来て？」



□ 呼びかけ

自治組織による広報配布、各世帯への無線で周知（地域の理解が無ければ不可能）。観光協会やコンビニ、飲食店等も周知協力にわり、だんないを地域活性化の手段として活用する。

□ 居場所の創出

一般の方の来店に加え、専門職や民生委員等が、認知症の方以外にも、障がいのある方、ひきこもりの方など、気になる方にだんないを紹介し居場所として活用。この場所がきっかけで大きな変化が生まれた人も。



□ 地元企業の参画

提供する飲料、お菓子等はできるだけ地元企業のものを使う。相互利益を考慮することで、多くの個人事業主、企業が社会貢献として物品・場所の提供や、周知協力で参画。



共感から共創

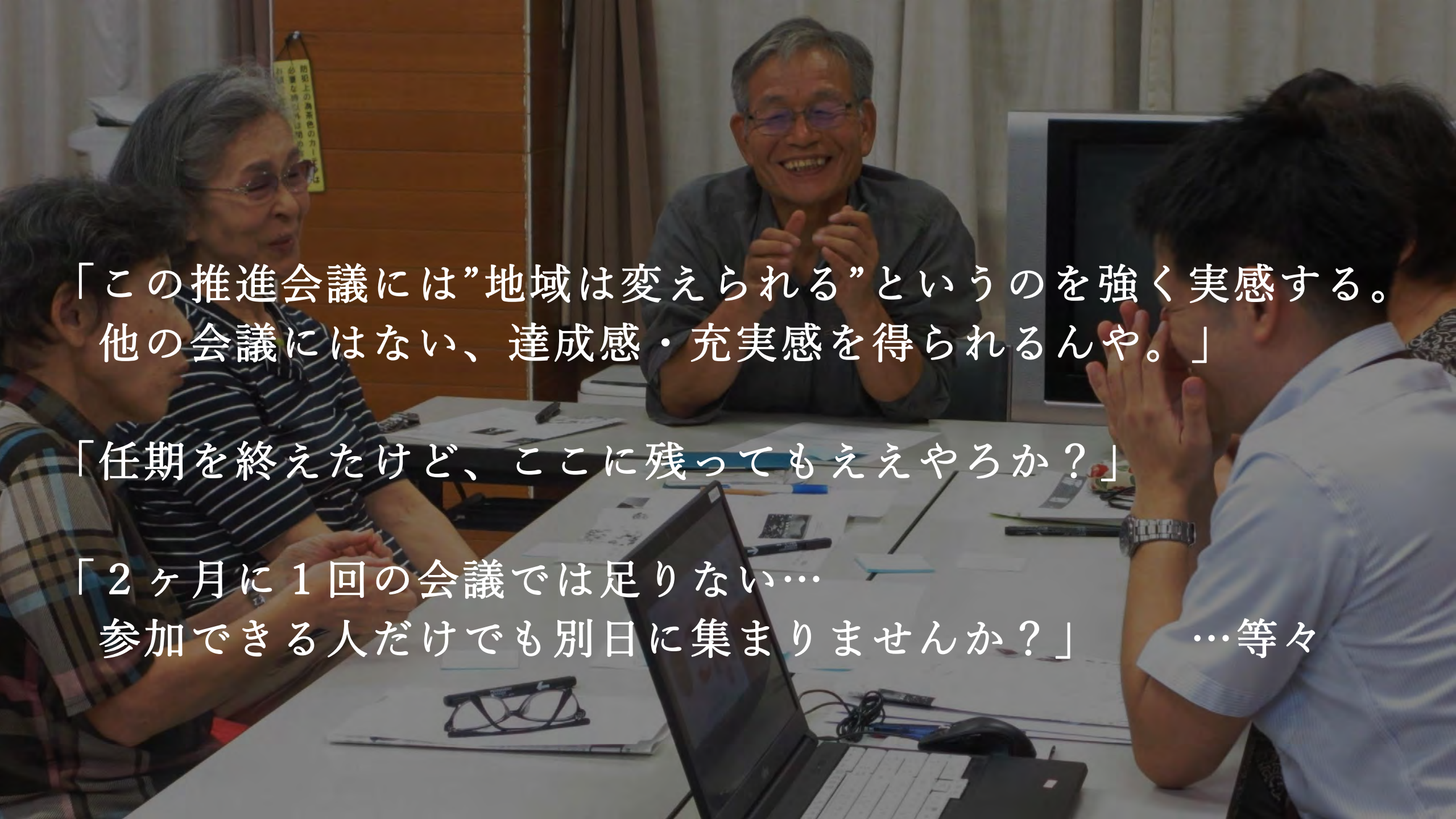


柏原地域 支えあい推進会議

「10年後の柏原地域を変える」

地域の力を結集する戦略会議

2016年から「地域生活を考える勉強会」等の知る・協議の機会を”人づくり”を行い、一般有志、自治組織や民生委員を中心に2018年に設立。地域生活課題解決に向けた協議を重ね、情報共有シミュレーションゲームの開発・実践、ガイドラインの策定、お米deつなぐ助け愛プロジェクト、買い物困難者支援、集いの場の普及、地域生活を考える勉強会等の継続開催（参加者は延べ2,000名以上、後継育成に着手）等を多様な主体と協働で行い、資源の活用・強化・開発、ネットワーク構築、小地域の協議活性・活動創出へのアプローチ等を行っている。「やってみたい」を大切にする。



「この推進会議には”地域は変えられる”というのを強く実感する。
他の会議にはない、達成感・充実感を得られるんや。」

「任期を終えたけど、ここに残ってもええやろか？」

「2ヶ月に1回の会議では足りない…

参加できる人だけでも別日に集まりませんか？」 …等々




ひとりぼっちを
つくらないまち
かいばらち



- 規範的統合
- ネットワーク構築
- 既存の取組支援
- 新たな取組創出



A woman with short dark hair, wearing a white surgical mask and a black apron over a patterned sweater, is focused on her work. She has her eyes closed and is holding her hands together in front of her. The background is a workshop or studio with various items, including a blue and white striped object and a blue cabinet. The lighting is warm and indoor.

築きと気づき



築 き

自治会長「すごいな…ほんと地域に”根付いた”な」

(地域の子ども、若者、高齢者、障がいのある方、外国人が交わる店内を見ながら)

- ✓ “認知症になっても活躍できる社会”スローガンが地域づくりによって具現化されたことで、ビジョン・価値観の共有を図ることができ、「協力したい!」という声が多く、人材発掘の機能も。
- ✓ 地域・企業・関係機関の協働体制が構築され、他の取り組みにも波及し、付加価値を生んでいる。強みを結集し、弱みを補い合う体制。
- ✓ 当事者家族や関係者から「気軽に相談できる場所」として認識され、当事者を連れて来店するなど、この場から個別支援への展開も。
- ✓ 福祉教育で小学校に行くと「だんないのお兄ちゃんや!」
- ✓ 当事者や家族だけでなく、来店者が変わる。
- ✓ 変わっていく人、地域。同じビジョンを描く関係性。



気付き

全体最適を考えた上で、部分最適を追求する。

- ✓ 多様な主体と目的や問題意識、価値観を共有し協働体制を構築。人や組織のはたらきの最適化を考え、地域マネジメントの視点を広く持つことが重要であった。負担を減らし、成果を生む。
- ✓ “認知症”は入り口・協働領域。“地域”を舞台に共創することで、その先で共生の場が生まれた。（事業間連携）
- ✓ 組織化・運営は難しい。”継続して発展”するために常に協議、課題設定と解決の流れが必要になる。
- ✓ 地域の実践や成果が定着・累積する仕組みが課題。

生活支援体制整備事業開始時、地域に溜まっていた“不満”や“怒り”は相当なものでした。警戒から信頼関係構築へ、目的や問題意識の共有を丁寧に行い、意識や行動を変えていくアプローチがカギだったと思います。



Instagram

注文をまちがえる喫茶店in丹波企画実行委員会

認知症の親の介護を
苦労しました。

苦労しました。

少しでも認知症に
対する理解が深まる
ことを期待しています。

皆さまのご来店を心よりお待ちしております

ありがとうございました

170代 男性